

桜の品種紹介

桜の写真提供: (公財)日本花の会



コヒガン
(一重咲・小輪・淡紅)
小型の品種。ソメイヨシノに似ていて、密生して花がつく。



コシノヒガン
(一重咲・中輪・淡紅)
花の雰囲気はソメイヨシノに似ていて、やや小型。



ヤエベニヒガン
(八重咲・中輪・淡紅)
コヒガンの八重咲品種。枝が横に広がらない樹形。



ベニユタカ
(八重咲・大輪・濃紅)
花の紅色が豊かで大輪の八重咲である。



コケシミス
(一重咲・中輪・淡紅)
白い花の先端は細かく切れ込み紅色に染まる。



オモイガワ
(半八重咲・中輪・淡紅)
栃木県小山市で作られ、市内を流れる川に因んで命名された。



シロタエ
(八重咲・大輪・白)
蕾は淡紅色だが、最盛期は白色で大型の八重咲の花が咲く。



ギョイコウ
(八重咲・中輪・黄緑)
黄緑色に緑の筋が入る特徴的な花が咲く。

桜の開花カレンダー

品種名	3月			4月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コヒガン		✿				
コシノヒガン		✿				
ヤエベニヒガン		✿				
ベニユタカ				✿		
コケシミス				✿		
オモイガワ				✿		
シロタエ					✿	
ギョイコウ						✿

桜守活動の発足に向けて

桜守活動とは、地域の皆様で地域の桜を守るボランティア活動のことです。桜守活動で日常的に桜を見守ることにより、より良い維持管理をすることができるとともに、地域のコミュニティ形成や活性化も期待できます。桜守活動で桜を守り、地域の財産として愛される桜の景観を形成していくことを目指します。

<桜守活動内容>

① 日常的な点検・観察作業

桜の健康状態や周囲の状況の観察を行い、桜の変化や異常を早期発見します。

② 土壌改良

緩効性の固形肥料や完熟堆肥で土壌改良を行い、桜の活力を回復させます。

③ 桜のPR活動

桜の観察会や維持管理作業の内容を地域の皆様に発信していきます。



花芽観察

目黒のサクラ保全事業の流れ

1 樹木診断

樹木医による診断を行い、個々の桜の状態を把握します。倒木の危険のある桜については先行して伐採を行い、安全確保を図ります。

2 サクラ再生実行計画の作成

桜の保護、植替えについて地域の皆様と検討を行い、地域に合ったサクラ再生実行計画を作成します。

3 保全・更新

サクラ再生実行計画に基づき、桜の伐採や伐根、植替えを行います。また、弱っている桜を保護します。

目黒のサクラ基金にご協力をお願いします

サクラ基金は、ふるさと目黒の桜のある風景を後世に伝えるための基金です。公園等の桜の保護・植替えなどに活用しています。詳しくは目黒区ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/zaisei/kifu/kikin/sakurakin.html>



ふるさとチョイス

お問い合わせ先

目黒区都市整備部みどり土木政策課

電話: 03-5722-9745 FAX: 03-3792-2112

メール: midoridoboku04@city.meguro.tokyo.jp



ふるさと目黒の
桜を後世に伝える

九品仏川緑道
サクラ再生
実行計画



サクラ再生実行計画HP

令和3年3月
目黒区

桜の花を長く楽しめる緑道を目指して

サクラ再生
実行計画

桜と共に歩む…九品仏川緑道桜並木の将来の花景観

① 賑わいのエリア(自由が丘駅付近)(将来像)



② 落ち着いたエリア(将来像)



③ 出会いのエリア(緑が丘駅付近)(将来像)



① 賑わいのエリア(自由が丘駅付近)

一斉に咲くソメイヨシノの賑わいのある風情を将来へ引き継ぎます。成長後の大きさを考え、同系統の花でひとまわり小ぶりのコヒガン、コシノヒガン、ヤエベニヒガンで植替えを行います。

② 落ち着いたエリア

静かな住宅街には、多彩な桜を楽しめるよう賑わいのエリアと出会いのエリアの品種を混植して植替えを行います。

③ 出会いのエリア(緑が丘駅付近)

桜の花を長く楽しめるように遅咲きのベニユタカ、コケシミス、オモイガワ、シロタエ、ギョイコウで植替えを行い、花との出会い、人との出会いを大切にします。

桜の写真提供: (公財)日本花の会



桜並木の現状と課題

植栽後45年以上が経過し、桜の老齢化や環境の変化により、衰えの目立つ木が増えてきました。そこで、平成30年度に九品仏川緑道の桜116本について、樹木診断を行いました。全体の約8割は健全か健全に近いと判定され、すぐに植替える必要はありませんが、根や幹の材の腐朽や病害虫等の被害が見られ、樹勢が衰退傾向の桜もあり、計画的な保全が必要となっています。

現地調査会の様子

桜並木の景観を将来にわたって引き継ぐため、令和2年度に九品仏川緑道で現地調査会を開催しました。桜の問題点、それらを改善するための将来像(案)について樹木医が説明し、ご質問・ご意見をいただきました。



現地調査会の様子

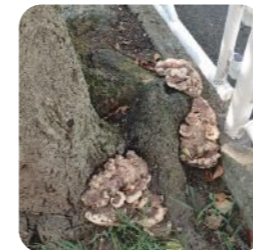
今後も皆様とともに九品仏川緑道の桜を将来にわたって守っていききたいと思います。

桜の問題点と原因

大型のソメイヨシノは狭い空間に適さず、問題が発生しています。



植栽帯の空間が狭く、土も固くて根を伸ばせない
→植栽帯内で巻根になり、根上がりして舗装を壊したり歩行の障害になったりしています。



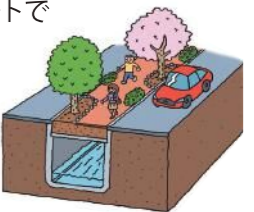
幹や大枝、根株が腐朽している
→樹勢が衰退し、突然大枝が落ちたり倒木の危険があります。



桜同士の植栽間隔が狭い
→枝や根が接触して若木も病気に感染しやすく、支障枝の剪定により樹形が崩れてしまいます。

緑道の構造

九品仏川緑道はもともと川でしたが、コンクリートの蓋をかぶせ、その上に土を盛り、緑道として整備し桜を植えています。地下や両脇がコンクリートで仕切られているため、大型の桜では根を十分に広げることができず、生育不良に陥ってしまいます。このため、生育環境に合った植替え品種の選定が必要となります。



九品仏川緑道の断面図

サクラ再生
実行計画

桜並木の再生に向けて～人と桜に優しい緑道に～

現在の桜を健全に育てて、できる限り長く残していきます。

根の保全をします

現在1本だけの場所に関して、植替え時には、2本ずつまとまった植栽帯の整備を行い、植栽帯と歩道を上の図のように分離して、安全安心な通路確保と根元保護を両立します。品種は大型のソメイヨシノから小型のものへ変更し、中高木の過密植栽で根が競合してしまうのを避けるため、桜の根元回りは小低木や地被類に植替えます。

施肥や土壌改良をします

土壌基盤が浅く固結しやすいので、根の活力不足で弱っている木には、下層まで空気や水が届くよう孔を空けて追肥をします。抜根後の場所では丸ごと保水性改良材を混入した良質客土に入れ替えます。

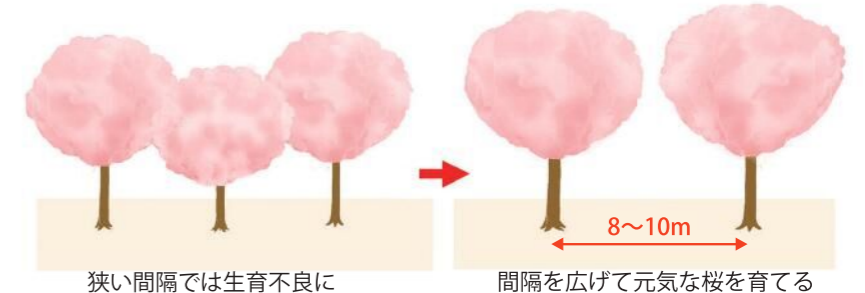
定期的に剪定をします

枝葉を伸ばすことのできる範囲が限られている街路では、成長する桜の樹形をコントロールする必要があるため、定期的に剪定をします。また、枯枝や衰退した枝は、落下する危険があるため随時切除します。

やむを得ず倒木の危険により伐採した場合には、すぐに同じ場所に補植せず、周辺環境に合わせて植替えを行います。

適切な植栽間隔を確保します

現在、九品仏川緑道の桜は、3m程度の狭い間隔で植栽されている場所もあり、樹木同士が重なりあい樹勢に影響を及ぼしている状況です。植替え時は、成長後の大きさを見越して適切な植栽間隔を確保して植替えを行います。



改善方法